

## 県立保健医療大学学生と県議会議員との意見交換会開催状況

開催日時	令和7年11月27日（木）10時30分～12時00分
開催場所	山形県立保健医療大学（山形市）
出席議員	田澤伸一、佐藤文一、相田日出夫、相田光耀、高橋淳
参加者	学生7名、大学院生3名
意見交換の概要	<p>学生2名による活動報告が行われた後に、①「看護学生が考える山形県の保健・医療体制の現状や課題」、②「医療機関医における働き方の現状や課題」の2班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、各班で取りまとめた内容を学生が発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在看護師や県外で就業している看護師が県内で再就業するための支援の充実や体制づくりが必要。</li> <li>・子育て中の看護師が働きやすいよう、日勤専属とするような仕組みをつくる必要があるのではないか。</li> <li>・根本的に看護師の地位向上が必要であり、そうすれば賃金も上がると考える。</li> <li>・電子カルテの導入が進められているが、医療機関や地域間で連携できるシステムを導入することで更に業務の効率化が図れるのではないか。</li> <li>・理学療法士と作業療法士については、県内の養成校卒業者のうち半数が県外に就職してしまう現状にある。今後、在宅医療などにおいて一層重要度を増す職種であるので、県内における就職先の窓口を広げていく必要がある。</li> <li>・物価高騰を受けて食券の補助などをいただいたが、学生食堂を利用しない学生もいるため、お米券の配付や負担の大きい実習費用の支援があるとありがたい。</li> <li>・博士号を取得した人材の活躍の場を県としても考えてもらうとともに、大学院生自身も、学部卒との違いなどを発信していくことが必要。</li> <li>・大学院生は理学療法士や作業療法士などの資格を有しているので、大学院で研究をしながら、公立病院などで臨床経験を積むことができるよう支援があるとよいのではないか。</li> </ul>